全建連の飛躍を確認

第2回理事会第1回評議員会開催

四十七年度 事業計画を採択

閉会後なごやかに新年会

第二回全建連理事会と第一回評議員会が、一月十九日静岡県熱海市の臨海ホテルで開催され、昭和四十七年度の事業計画、活動方針、予算等について討議された。各都道府県加入団体の幹部が一堂に会し、全建連の飛躍を確認、翌日午前中に散会した。

全建連発足後、二年目を迎える今年は、その活動の方向が決定される重要な時点に立ったわけであるが、今井会長はじめ全建連役員が一堂に会した今回の第二回理事会、第一回評議員会において、その活動方針の大綱が具体化されることとなった。

経過報告と全建連の組織状況について中川常務理事から報告のあった後、議事に入り、①執行体制の強化について、②昭和四十七年度事業計画、③昭和四十七年度歳入歳出予算、④表彰規程の制定について、⑤会費規程の制定について、⑥専門部会の設置について、⑦組織の拡大強化について、⑧全建連バッチの制定について、⑨細則の委嘱について等が討議された。

特に全建連の財政については論議が交され、昭和四十七年度の事業計画（最後に記載）とからみ合せ、健全な財政を確立することが確認された。

また、発足後二年目を迎えた全建連として、団体の象徴であるバッチも制定することとなり、早急に制作にとりかかることとなった。

なお、専門部会の設置については決定し、部会員は次の通りである。

総務部会
部会長　島居治三郎（東京）
岡田　勇（奈良）
松ヶ下利雄（兵庫）
神尾　広海（佐賀）

組織部会
部会長　細坂　節男（北海道）
中村　民蔵（秋田）
下垣　新松（福井）

財政部会
部会長　須佐見源三（京都）
木村　長久（福島）
吉田　良光（千葉）
田中庄太郎（東京）
加藤　定男（三重）

技術対策部会
部会長　米沢子之松（秋田）
田中　良一（北海道）
新井　又吉（東京）
黒田　重雄（兵庫）

なお、会議終了後、新年、懇談会に入り、なごやかな雰囲気のうちに散会した。

昭和四十七年度事業計画要綱

（A）へ　新聞の内容を充実し加入者にとしまれ、仕事上の指針となるものにする（B）随時全建連情報を速報し、事業活動の指針をしている。

改正建設業法の施行規則を公布

建設省

建設省は一月十八日付で建設業法施行規則の一部を改正する省令を公布した。

要旨は次のとおりであるが、この省令は四月一日から施行される。

(1) 建設業の許可要件である技術者の資格に関し、学歴のある者について実務経験の年限短縮を行なう場合の学科を定めたこと。

たとえば建築工事業、大工工事業の許可を受ける場合の技術者の資格の一つとして、高等学校卒業後五年または大学卒業後三年の実務経験をもつ者で、在学中建築学または都市工学の学科を修めておればよいことになっている。

(2) 許可申請書および添付書類の様式を定めたこと。

従来と違って新たに提出を要するものは「使用人一覧表」

(3) 許可更新の申請

有効期間満了の日前三十日までに許可申請書を提出すること。

(4) 下請代金支払遅延の場合の延利息

特定建設業者（一五〇〇万円以上の工事を直接請け負う者）延下請代金の支払遅延の場合、遅延利息の率は、下請代金支払遅延防止法の率と同じく一四・六%とすること。

建退共 融資事業を開始

建設業退職金共済組合は、てから懸案となっていた還元融資事業を四十七年度から開始することとなった。

この融資事業は、建退共制度に加入している事業主、またはその団体、地方公共団体に対して、建設労務者のための福祉施設の設置や整備に必要な建設資金を退職積立金の一部を使って貸し出そうとするもので、融資枠は五億円となっている。

建退共は、貸付の実施時期、手続きなどを目下準備中であるが中小企業退職金共済制度の融資事業に準じて行なうもようである。

△ここ二、三年来、新聞紙上をにぎわす青少年犯罪の数が多くなったことは、周知の通りである。これを批判する評論家諸氏の言いぐさがおもしろい。

△だいたいが、一定の方程式にそって彼らは何でも批評しているようで、どんな現象でも決ったようなことばをはくようである。

△まず、日本の現体制に欠陥があると説き、政治の貧困をつき、一人の青年を犯罪をおこすまでいやった環境の悪さをついしまいのようである。

△この方程式は、青少年犯罪を批評するだけにとどまらず、あらゆる問題点を、洗い出すときにも使用される。

△ところで、我々もすっかりこの方程式になれてしまい、我々自身も、あらゆる問題を政治の責任としてかたづけて、しまいがちである。

△息子が非行化に走って、その責任をどうして他に求めようとするのか——。もし自殺をした人がいた場合、なぜ原因を他に求めようとするのか。

△近代は政治への期待をますます大きくさせた。何でも政治でかたづけようとする。

△もうすこし自分のことは自分でという気持を持ちたい。このままでは、悪憂までも政治の責任ということになりかねないようである。

（中川）

住宅・職訓予算決まる

昨年よりやや増額

一月十二日の閣議で四十七年度予算の政府案が決ったが、建設、労働両省関係のうち、当業界に関係の深い事項は次のとおり。

建設省

昭和四十七年度住宅建設計画

一、建設戸数

公営住宅
一二万八千戸
団一、三平方㍍とそれぞれ規模を拡げる。

改良住宅
一万四千戸

公庫住宅
二八万戸

公団住宅
八万八千戸

農　住
四千戸

合計五〇万四千戸で、前年にくらべ七・五八%の増。

二、質の向上

住宅の質の向上をはかるため一戸当たり、公営、改良とも二平方㍍、公団二、三平方㍍、公営、改良の高層（十二階以上）の単価を新たにセットする。

また、用地難の折から、高層化を促進することとし、前年度より三万五、五〇〇戸多い、八万四〇五〇戸を、高層住宅とする。

三、工事単価

工事単価については、値上がり率に防災措置を講ずるための経費を上乗せするとともに、公害、公団一、三平方㍍とそれぞれ規模を拡げる。

労働省

事業主等の行なう職業訓練の充実をはかるため四十六年度より六千五百万円多い七億五千九百万円。

補助単価　三〇〇万円（前年度三〇〇万円）

一、運営費補助（訓練生一人当たり補助額）

指定職種　五、二〇〇円（前年度四、七〇〇円）

その他の職種三、六〇〇円（前年度三、二〇〇円）

二、共同職業訓練施設設置補助

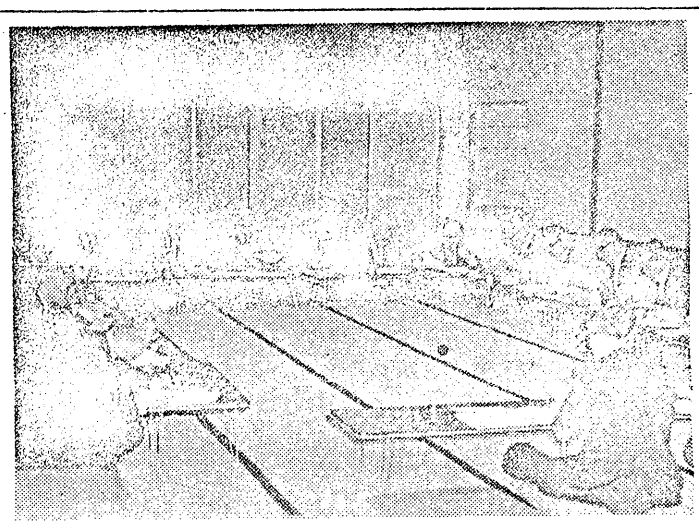
施設数　二七ヵ所（前年度二五ヵ所）

解説

全建連に関係の深い事項では建設省、労働省とも、前年度当初予算より約10%アップしている。これは、ドルショックに端を発した不況を、建設業関係の振興によって脱け出そうとするものである。

この方向は、全建連としても歓迎できるものであり、全建連執行部門では相当評価をよせている。

（中川）



今井会長ら 新年の挨拶回り

一月七日、全建連今井会長、石井専務理事、中川常務理事、田中北大部理事らは、新年挨拶回りを行い、本年の発展を期した。

当日は建設省藤尾正行政務次官、計画局長、住宅局長と懇談、その後労働省に回り、原労働大臣、職業訓練局長、職業安定局長らに挨拶をし、関係業・参議院議員、関係団体にもおもむき、午後四時半散会した。

今回は初めてであって、どこの挨拶先でも注目と期待の目をもって迎えられ、とくに建設省では、全国でも唯一の建築関係の全国組織とあって、今後当会の発展と役割に対し深い理解と協力を約束してくれた。

また労働省の職業訓練局でも、技能者の育成に対する物心両面の援助を積極的に推進していくことになった。

全建連とともに事業の安定と進展をはかろう。

全国建設工事業団体連合会
東京都港区新橋5丁目30番7号　〒105
加賀ビル1階
電話 03(433)　75

鹿島出版会の好評・建設経営書

建設経営入門
J・ターナー／佐用泰司・今河信悦訳

工事入手から末
法学博士 荒井八太郎著

建設業成功の
ローレンス・ミラー／鹿

改訂新版
ジョノント
法学博士 鹿島守之助著

J・V（ジョイントヴェンチュア）
建設企業研究会編

いまや
延払い工事や
いる。
いまほど経営の
きはない。

全訂新版 工
—新しい計画
工学博士 佐用泰司著
書版出来！工事管理の即
工事の特質を
合理化ととりく
論と手法をわかり
役立つように

'72
九月初旬より
土木現場
定価三三〇円
建築現場
定価三三〇円
—年末・年始の
金箔社名入り
（但

一〇〇冊以上御
特

①金箔にて社名
無料にて加工
②貴社名入りの
け致します。

実物見本ご
電話又はハガキに
東京都文
振電

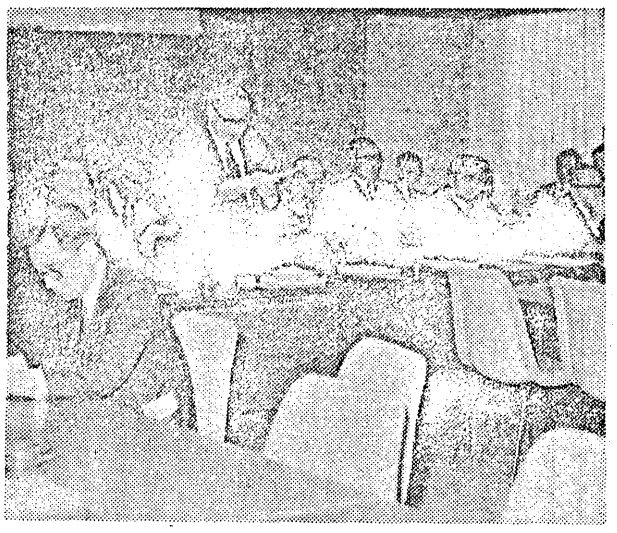
事業主負担は苛酷

失業保険特別保険料制度の懇談会

労働省は実情を理解せよ

多雪地帯の建設業者訴える

「諸国では少くとも冬の間、三ヶ月間は仕事が出来ないが、この間、発生する失業者の保険料を我々事業主が負担するということは納得いかない」と北海道などの建設業協会は来年施行される失業保険特別保険料制度の変更を要望していたが、一月二十一日全国建設業協会、労働省、社会労働委員などの関係三者が集まって同制度に対する懇談会を自民党本部にて開催した。



（業界の主旨を述べる地崎建設業協会長）

同懇談会には全国建設業協会、労働省、社会労働委員の関係三者のほか北海道、東北、北陸などの地元出身衆・参議員、オブザーバーなど五十数名が参加し問題の失業保険特別保険料制度に対する論議がかわされた。

地崎宇三郎全建会長の挨拶のあと小野党務理事から「雪害期間の建設業者は十一月～三月までは天災的な理由でやむなく仕事がストップし必然的に失業者を出す。であるからこの失業者の保険料を雇用主が負担するという同制度に対してはまったく納得いかない」などという業界の要望が述べられた。これに対し住職業安定局長が「この制度は現在の失業保険料が短期受給者、すなわち建設業関係に全体の六〇%である三百億程度が持出され、収入と支出とが非常になっている。

また、同事務所とつなぎ合って簡単な体操があり、役員や会員が膝を交じえて仕事や生活の問題を話し合えるように、テレビや暖房装置が置かれ気安くできる事務所も大切だが、組織を強化・拡充するには近代的な機能をもった会館が必要である。だが先立つものは〝資金〟ということでそのやりくりに四苦八苦、事務所の二階にアパートをつくって賃貸産業をしたり、会費を値上げしてはなどと苦肉の策をねっている。

職人の旦那たちが気安く出入りし合っているというのである。

なお、会場風景の構成は、設備モデルコーナー、業者団体コーナー、モデルルーム、新しい機材実演コーナー、プレハブ住宅コーナー、建築材料ならびに部材コーナーなどからなっており、住宅需要者の理解と認識を深めることに役立つと思われる。

会館設立を相談する役員ら

中原建設連合会（神奈川）

会館設立に力を注ぐ役員

中原建設連合会（諏訪部助太郎会長）は、発足以来十年、川崎市中原地区で働く大工、左官、板金、建具業などに従事する職人たちを集めて種々の事業活動を行なっている。

設立当時は事業主・一人親方だけの集まりで、相互の親睦と技術向上の趣旨で出発したが現在は従業員なども加えると五百名以上の組織になりそれゆえ労災保険、業者登録、納税斡旋などその事業内容を広げている。なかでも納税斡旋は税理士や県知事から表彰されるなど、連合会の役員の自慢話しの一つになっているほど。

たしかに同連合会の事務所は簡素な建物であるが、四人の事務員がたえず業務をさばき、会員の生活から建築の専門的なことまで一つ一つ懇切丁寧な指導や情報が行なわれ一つの完成したシステムと使用されるように工夫されている。ちょうどこの新聞取材に言ったときも会長さんを通じた役員会が行なわれていたことまでそれはまさに阿吽の呼吸のたかが本必要な形式を抜きにして話し合っているような光景であった。

だが、何にも問題をかかえていないように見える当連合会にも、いま一つの大きな悩みがあるという。というのは〝資金〟が決定し、盛大な展示会になるそうだ。

なお、会場風景の構成は、設備モデルコーナー、業者団体コーナー、モデルルーム、新しい機材実演コーナー、プレハブ住宅コーナー、建築材料ならびに部材コーナーなどからなっており、住宅需要者の理解と認識を深めることに役立つと思われる。

第七回明日の住まい展

二月十一日から開催

（財）日本建設材料協会・プレハブ建設協会から構成されるプレハブ総合展協議会では、第七回プレハブ建築・建材設備機器総合展、通称「あすの住まい展」を四十七年二月十一日から十六日までの一週間、東急日本橋店で開催する。

今月のテーマは「よりゆたかな明るい生活」という住宅新の質的向上をねらい、約四〇社の出品者の理解と認識を深めることに役立つと思われる。

盛大に 四十七年度総会を開催

船橋建設従業者組合

挨拶する声田良光議長記

船橋建設従業者組合（星川竹之助組合長）は、一月十日午前十分ヒリ船橋商工会議所六階大ホールにて昭和四十七年定期総会ならびに新年会を盛大に催した。

同組合は発足以来二十年目とあって、総会、新年会とも内容充実したもので、「ドルショックによる不況を切り抜け組合員の生活や仕事の向上をめざそう」と呼び掛けを新たに今年度に対する同組合の意気込みを示した。

主な組合新役員は次のとおり

組合長　星川竹之助
副組合長　三条三郎
同　内海勝保
副議長（会計）　声田良光

なお当日は全建連を代表して田中正太郎理事が新年会で挨拶を行なった。

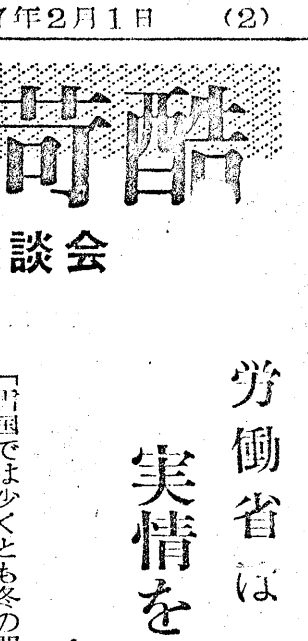
細坂節男氏

全建連組織部会長として熱意を燃やす

にアンバランスをきたし、その調整をきたすためにはどうしても支出の多い事業主に負担してもらわなければならないという主旨から出ている」と労働省の考えを説明した。

その後引き続き両者の説明・主張が行われたが、基本的な点で相方の理解が食い違っていることから社会労働委員が仲介に入り、「この制度はすでに立法化されているものであるから法律そのものを変えることは不可能に近い。残されていることは行政段階の労働省がどの程度、建設業界の要望を満たすことができるかということである」と打開策を提案した。

このことによって相方が、今後とも事務折衝をもち納得ある解決策を社会労働委員、関係代議士を加えて考え出すことに同意し、同懇談会も再度開くことに一致した。



《まずは組織の強化、充実が先決だ……》

横顔

生粋の道産子。「北海道は雪と寒さでたいへんだよ。三月まではほとんど仕事はストップだ」、事業主負担の失業保険料制度はこまると労働省陳情のため連々上京。「でも〝住めば都〟で北海道が一番好きだな。なにしろ美人が沢山手でさらう程いるからな……東京の女の子にはピックりせんよ、ワハハ」とすかさず話を横道にそらす。

「昭和二十七年に道庁の役人をやめて細坂建設興業株式会社をつくってこの道を歩きだしたのだが、札幌市建設業組合長など各団体の仕事が忙しくなって今は休業しているところだ……」

たしかに同組合長の他、札幌市職業訓練校長、建設国保札幌支部長など多方的な活躍ぶり。札幌―東京間を飛行機で行ったりきたり。全建連、建設国保の本部はもちろん国会、各官庁などへも遠慮なく足をはこぶ。タフな人である。

「全建連がまずやらなければないことは組織の強化と実質的な中味をつけることだ。未加入の県や地区にどんどん働きかけることや労働・建設省に対して技能検定の特免や職業訓練の援助の拡充などをかちとらなければ」と全建連の組織部会長としての活躍をはく。

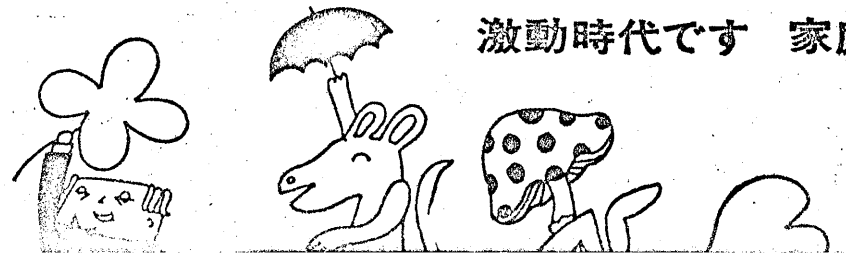
「前年、職業訓練校長として欧米の訓練校を視察したが、どう見ても日本の訓練もまだまだ貧弱。自分としてもこの問題に対しては意欲がわいてくる」。大陸的というか押しが強いというか、なにしろスケールの大きさを感じさせる。

「家業は息子が学校を卒業してからまた始めようと思っているよ」二人の息子さんは現在は上京して学校通いということである。

「札幌はオリンピックをひかえて賑かになってきたぞ。俺も体育指導委員として参加するんだからな。アハハ」どうなっているのか知らないが、このこともほんとらしい。

戦時中、〝要塞統制隊〟という物騒なことをやっていたということだが、なにか初体面の人ならば〝ドカン〟と一発くわされそうな人である。四十七歳。

激動時代です　家庭経済の基礎づくりを早くすませた人が勝ち



ご家庭の幸福を未来にかけて守る保障―
生命保険は家庭経済に何よりも優先します。ご準備は　おすませですか？